

2017 年（平成 29 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2017 年（暦年） 段ボール需要予測 14,100 百万㎡ 前年比 101.0%

2016 年の国内経済は、7-9 月速報値で前期比実質 GDP 成長率が年率 2.2%増となり、3 四半期連続のプラス成長を確保し、緩やかな回復基調を維持している。民間調査機関による直近の予測では 2016 年度実質 GDP 伸長率は概ね 1%程度となっている。

2016 年の段ボール需要は堅調なペースで推移し、1-10 月累計で前年比 101.5%となり、1-12 月累計では、2015 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 101.2%を上回り、2007 年の過去最高生産量 139 億 6,600 万㎡に迫る 139 億 5,700 万㎡（前年比 101.6%）程度となる見込みである。

2017 年度の国内経済は、トランプ大統領による影響が不透明な部分はあるが、引き続き緩やかな回復基調が続くと予想されており、民間調査機関による実質 GDP 成長率予測は概ねプラス 1%程度となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2017 年（暦年）の段ボール需要を 14,100 百万㎡（前年比 101.0%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月 100.7%、4 - 9 月 101.0%、10 - 12 月 101.4%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比 41%）は節約志向による中食の増、消費単位の細分化、訪日外国人による需要等、段ボール需要にとってのプラス要因が見込まれ、1%強の伸びと予測。

「その他」（構成比 17%）分野は紙おむつ、高齢者向け衛生用品、ペット関連商品等やインバウンド需要にも期待が持て、1%程度前年を上回ると予測。

「青果物用」（構成比 11%）は生産者の高齢化、農業人口減少により生産量の伸びは期待できないが、農産物の輸出増等もあり、前年並みと予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比 8%）は自動車、家電等国内生産量の伸びが期待できない分野であるが、買い替え需要、インバウンド需要等に期待し、前年並みと予測。

「通販・宅配・引越し用」（構成比 5%）は引き続きネット販売を中心に好調で、5%以上増えると予測。

以上

段ボール生産量推移

